

～宜野湾市上下水道事業経営ビジョンの策定に当たって～

宜野湾市の水道事業は、昭和 35（1960）年 8 月に普天間の一部地域に給水を開始したのが公営による水道事業の始まりであります。それから 60 年余、市内全域に渡る配水管網の整備を進め、現在では給水世帯数が 4 万 6,798 世帯で普及率は 100%に達し、市内全域においていつでも、どこでも、安心・安全で、良質な水道水を提供できるようになっております。また、下水道事業につきましては、昭和 48（1973）年の公共下水道の供用開始から、今年度で 50 周年となる節目の年を迎え、市内全域に渡る生活環境の改善や浸水防除等に向けた雨水及び汚水の整備を積極的に進め、公共下水道の整備率は 95.93%と、既成市街地の整備は概成し、衛生的で快適な公共下水道サービスの提供ができるようになっております。

又、本市では平成 30 年 4 月に下水道事業へ地方公営企業法を適用するとともに、水道局と建設部下水道課の組織統合を行い、宜野湾市上下水道局が開局しております。この新たな組織のスタートを契機として、効率的で効果的な上下水道事業の推進を図るため、令和 3 年 4 月より上下水道料金等の窓口収納業務や上下水道施設の維持管理業務等を一体的に包括して委託する宜野湾市上下水道事業包括業務委託を開始し、更なる上下水道事業の推進と市民サービスの向上に取り組んでいるところでございます。

さて、今後の上下水道事業を取り巻く状況は、将来の人口減少に伴う料金収入の減少、施設の老朽化の進行や耐震化の遅れ、両事業を担う人材不足の深刻化など、多くの課題に直面すると言われております。また、大規模地震や台風などの自然災害によって、上下水道施設の安全性を脅かす危機が顕在化し、災害リスクも多様化・深刻化している状況といえます。

このような上下水道事業を取り巻く状況を踏まえ、本市上下水道局では、水道事業の目指すべき将来像を描き、その実現のための方策を示す計画として、平成 30 年 3 月に『宜野湾市水道事業ビジョン(改定版)』を、又、平成 31 年 3 月には将来にわたりサービスの提供を安定的に持続することを目的とした経営の基本計画となる『宜野湾市上下水道事業経営戦略』を策定しました。今般、『宜野湾市上下水道事業経営戦略』が計画期間の中間期を迎えたことから、これまでの取組を振り返り、課題や目標の見直しを行った上で、『宜野湾市水道事業ビジョン』及び『宜野湾市上下水道事業経営戦略』の 2 つの計画を統合するとともに、新たに下水道事業ビジョンの内容も集約した『宜野湾市上下水道事業経営ビジョン』として、この度策定いたしました。

今後も、公営企業としての持続可能な経営の基盤強化をより強く意識し、水の循環に関わる給水から排水まで公共インフラの健全な維持保全を図ると共に、強靱な施設整備を推進し、安全・安心で安定した水の供給並びに衛生的で快適な公共下水道サービスの提供を第一に上下水道事業に取り組んでまいります。

結びに、本経営ビジョン策定にあたり、貴重なご意見、ご提言を賜りました沖縄国際大学法学部地域行政学科 平剛教授をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げます。

令和 6 年 3 月

宜野湾市上下水道事業管理者

上下水道局長 島袋 清松

